

情報の整理・分析・判断する力の育成をねらった付箋紙利用の授業の実践

正来 洋*1 堀田龍也*2

グループ学習において、個々の児童が気づきや考えを準備し、意見を交換したりまとめたりする際に付箋紙のメモを利用する。その際に「情報の整理・分析・判断」する力を育てることをねらい、「コンパクトさ」「貼り剥がしが容易」という付箋紙の特性を生かした KJ 法的な学習活動を繰り返し授業に組み込むことで、短く絞った内容でメモをとることの重要性に気がついたり、互いの意見を共有しつつ比較・分類・整理したり意味づけしたりすることに対し児童が意識的になる姿が見られるようになった。

<キーワード>

情報活用の実践力 付箋紙 情報の整理分析判断力 グループ学習

1. 研究の背景

情報教育がねらう力の育成を、教科等の学習の中でも具現化するような授業手法を探ることは、教科の情報化等の流れにあってさらに重要性を増している。

いわゆる「調べてまとめて伝える」学習の過程において、「まとめる」段階で求められるのは「情報の整理・分析・判断」をする力であろう。

永野ら(2000)は「情報教育の目標リスト」の中に以下のようにその位置づけとリストアップを行っている。

ア：情報活用の実践力
2. <課題解決における情報活用>
【e：整理・分析・判断】
LEVEL2 集めた情報を比べたりまとめたりできる
LEVEL3 集めた情報を分析し、適した方法でまとめることができる。
e3-010 集めた情報を分析し、傾向や規則性を見つける
e3-020 課題解決に必要な不足情報に気づき、さらに情報を収集・整理する
e3-050 集めた情報を活用しやすいように整理する
LEVEL4 情報手段を活用して整理・分析・判断する

これらの力は、育成場面を意図的に学習課程に埋め込み、継続的・反復的に取り組むこと

で力量形成を意図する必要がある。

本稿では、上記の学習場面において情報を整理・分析・判断する力を育てるために、「付箋紙」の利用に着目した。付箋紙のメリットは以下のように捉えられる。

貼りはがしが容易

- ・グループ学習等で集まった意見メモ情報の整理分析や意味の判断を行う際に、メモを動かして試行錯誤しながら学習を進めることができる。

コンパクト

- ・サイズが小さいため、一つの事柄を一枚ごとを書くことや、短くまとめて書くことへの意識付けがしやすい。
 - ・意見メモをグループ学習等で見直したりまとめたりする際に、情報全体を見渡しやすい情報を共有しながら話合うことが容易。
- 以上の特性を踏まえ、情報を整理分析判断する学習活動を行い、付箋紙を利用した学習の利点と効果を探る。

2. 研究の目的

情報の整理・分析・判断をする力を育てるためには様々な授業手法が考えられる。

本稿では KJ 法的手法をもとに「付箋紙」を利用したグループ学習授業に着目した。総合的な学習の時間を例に、個々の意見や気づき・事実を整理・分析・判断する学習場面を継続的に実施し、児童の反応を分析することにより、付箋紙利用の授業の効果を明らかにする。

3. 研究の方法

小学校5年生29名を対象に、総合的な学習の時間において、見たり調べたりした事柄や意見を整理・分析・判断する個別・小集団の活動を複数回織り込んで実践する。

その際に気づいたことや事実を「付箋紙」に記録しまとめる授業を行う。それ以外の方法（ノートへの箇条書き等）で記録しまとめる授業との比較を行う。

上記授業場面の記録を比較分析し考察する。

ア．ビデオや観察メモ等の授業観察記録による児童の反応の質的な記録・評価・分析を行う。

イ．付箋紙にメモする場合とそうでない場合（ノートへの箇条書き等）の方法で話し合いまとめる授業の評価を、児童にアンケートで問う。（方法の特性について）

4. 実践

総合的な学習の時間において、「11才のハローワーク」と題した職業教育を念頭に置いた単元を構想した。

単元の初期段階において、自分の将来の働く姿をイメージ化するため、NHK教育テレビ「平成若者仕事図鑑」を取り上げた。

番組中で紹介されている「働く若者」の姿を取材した番組を視聴し、印象に残ったことや学んだことなどを個々に付箋紙メモする。

その後、4～5人の小グループで意見交換を行って、わかったことや感想などの共通点などをポスター形式にまとめて発表するグループ学習を行った。

5. 結果

付箋紙にメモをとりながら学習を進める学習場面を振り返り、アンケートや授業の観察記録から次のような反応が見られた。

授業の観察記録から

ア．メモをもとにディスカッションしまとめる活動の繰り返しのなかから、自分の気づきや意見を一定量持たないために、ディスカッションが成立しない学習グループがあった。次の学習では話し合いの前段階に書かれた付箋数は大幅に増加し、ディスカッションが成立する様子が見られた。（図1）

イ．出された意見の分類整理だけではなく、出された意見群の要点を判断したり、全体からわかることを要約したりすることも、本稿で想定している学習場面の目的として重要である。そのような場面で、児童は書かれた付箋メモが分類整理され、情報の全体を見直しながら、その中から重要と考えられる情報の取捨選択を吟味する姿が見られた。（図2）

授業後の評価アンケートから

ア．個々の意見をメモに書き留め、それを持ち寄って意見交換による共有、分類整理してまとめるというグループ学習で、児童は付箋紙を利用すると「メモしやすい」「話し合いでの利用に効果的」などの印象を挙げている。（図3）

表1 実践の概要（単元の概略）

	内容	配時
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方オリエンテーション ・NHK教育平成若者仕事図鑑「大工」（25分間）視聴 ・グループ討論・まとめ・発表 「大工の前沢さんはなぜこんないい顔で働いているのか？」 	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・「路面表示施工技能士」視聴（25分間） ・グループ討論・まとめ・発表 ・「前沢さんの仕事への思いをキャッチコピーにしよう」 	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・「フードスタイリスト」視聴（25分間） ・グループ討論・まとめ・発表 「フードスタイリスト山崎さんの仕事への思いをキャッチコピーにしよう」 	2
	<ul style="list-style-type: none"> 「路面表示施工技能士」視聴（25分間） グループ学習・まとめ・発表 「中島さんの仕事への思いをキャッチコピーにしよう」 	2

第一回目	第二回目	第三回目
付箋数 5枚 23枚 T児・Y児・K児・S児・N児 付箋が少ない。ワークショップ時に意見交換にならない。ディスカッションが成立せず、意見の分類もできない。 追加で付箋に感想を書くことを指示。その後、話し合いを再度行った。	付箋数 45枚 前回の反省から付箋を積極的に書き残す姿が見られる。 ワークショップ時に意見交換もそれなりに成立している	付箋数 85枚 高田さんを中心にディスカッションが活発に進んでいる 付箋数が多すぎる？

グループで付箋が5枚しか書けなかった第一回目



図1 ある学習班の学習記録（付箋数と行動）



図2 全員で情報を見渡し、共有しながら話し合い

イ．サイズの制約のある付箋紙の特性に気づき、一つの事柄を短くスピーディーに書くことを意識（16 / 29人）する様子が見られる。（表2の1）

ウ．サイズの制約により、メモの際に書く事柄を絞ってメモをすることの重要性に着目（13 / 29人）している。（表2の2）
また表3に示すように、メモを書いた付箋をもとに意見の交換・比較分類と意味づけ（カテゴライズとキーワード付与）を行うグループ学習の場面では、児童は付箋紙に短く絞って書くことの良さに着目する反応が見られている。

エ．相互に意見を交換してまとめる場面で、付箋紙を貼り直しながら意見の対比や共通点の発見をしようとする反応が多く見られる。（表3の1）

表2 付箋メモの利点についての評価（29名中）

1. 気軽に書ける・たくさん書ける	17	17	
2. 書く事柄を絞ってメモをする	まとめやすい	7	
	短く書く良さ	6	
		1	
3. コンパクトに扱える	10	10	
4. 貼り直しできる	12	12	
5. 書いたことが確認しやすい、見やすい	5	5	
6. その他	目新しい・楽しい	1	1

表3 付箋紙を使った話し合い活動の印象に関する児童の評価（29名中）

1. 付箋紙を貼り直し（試行錯誤）しながら話し合える	カテゴライズしやすい	13	22
	貼り直し（試行錯誤）しやすい	6	
	キーワードをつけやすい	3	
2. 意見メモ全体を見渡しながら話し合い	意見が見やすい（共有できる）	8	9
	意見が比べやすい	1	
3. 書き直しが不要（貼り直しできる）		10	10
4. 意見が出しやすい		6	6
5. 短い言葉なのでまとめやすい		1	1

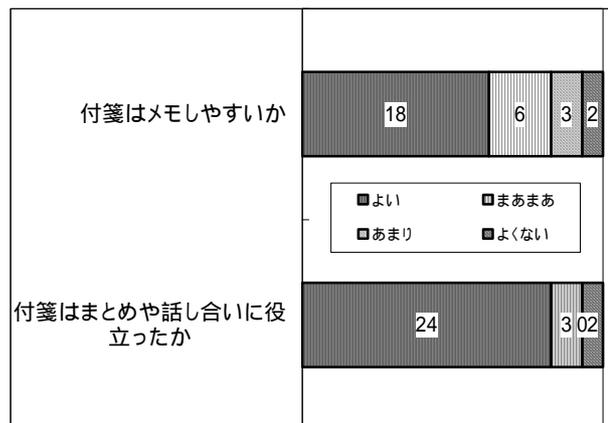


図3 付箋利用についての児童の評価（29名中）

オ．分類された気づきや意見群に対しキーワードを付与するなどの場面において、情報全体を見渡しながらかん同点や対比を見つけることが容易にできるととらえている。

（表3の2）

カ．個々の考えをグループの発表用ポスターに転記し直すなどの、書き直しが不要なく効率がよいととらえている。（10/29名）

（表2の3）

6. 考察

初めに見たように、付箋紙の持つ特性は次のようなものがある。

コンパクト

貼りはがしが容易

上記特性を生かし、グループ学習において情報の整理・分析・判断をする力をねらう場合、付箋紙利用の授業を行う利点は以下のようにまとめられる。

ア．付箋紙を使った授業の利点

コンパクトさを生かして

気づいたこと・考えたことなどを短くまとめて書くことが必要とされるため、児童にその意識付けができる。

(5 イ・ウ)

書いた量が枚数として現れるため、メモを書くことに対する意欲が高まりやすい。

(5 ア)

出された意見の全体を見渡し（共有し）ながら話し合い活動が進められる。

(5 イ)

貼りはがしの容易さを生かして

出された意見メモの全体を見渡したり、意味ごとに貼り直したりしながら、情報の分類・整理の活動を試行錯誤的に進めることが容易である。(5 ア・エ・オ)
書かれた意見の転記などの手間がなく、話し合いの時間が有効に使える。

(5 カ)

上記の利点を生かすために、情報の分類・整理・判断の力を育てることを意図した授業において、以下のような点が留意されるべき事項として示唆される。

イ．付箋紙を使った授業の留意点

一枚にひとつのことがらを書かせるようにさせる。

一枚をできるだけ短く端的に書かせるようにさせる。(キーワードを使い短くまとめることを意識させる)

書かれた付箋の量が多すぎても少なすぎても

ディスカッションの成立に支障となる。メモとして残すべき事柄の質と量を意識させる。

整理された意見群に対する意味づけとして、小見出し(キーワード)付与や、全体として学んだことを短文(キャッチコピー)としてまとめて発表させる活動などを取り入れて、付箋に書かれた意見の分類整理だけに終わらないようにさせる。

7. 結論

付箋紙のメモを利用して「情報の整理・分析・判断」する力を育てることをねらった授業を行う場合、付箋紙の利用により次のような効果が現れることがわかった。

「貼り剥がしが容易」という付箋紙の特性により、試行錯誤的追究が容易かつ効率的に行える。よって、付箋紙を動かしながら意見群の共通性を発見したり意味づけしたりするなど、児童が情報の価値判断活動を助けるツールになる。

付箋紙の「コンパクトさ」という特性により、自分の考えや気づきを短く要点に絞ってメモに書くということに児童の意識を向けさせる契機となる。

多数の意見メモの全体を小グループ学習の成員全体で見渡しやすい。よって、それら情報の整理・分析する活動において、情報全体を把握・共有・検討しながら進めることを助ける。

本稿において取り上げた付箋紙利用の授業場面は、総合的な学習における意見感想の交換の場面であった。

教科学習等も含めたその他のケースにおいて、付箋紙利用が効果的なのはどのような場面か、その場合の効果や留意点はどのようなものがあるかについて整理することが、本研究に残された課題であると考えられる。

8. 参考文献

情報教育の目標リスト
永野和男 火曜の会 2000
<http://kayoo.org/home/project/list.html>

発想法 川喜多二郎 中公新書 1967

発想法(続) 川喜多二郎 中公新書 1970